韓国においての日本語教育の位相

米山奨学生　　車　昇妍さん

米山奨学生の車 昇妍(チャ スンヨン)でございます。「韓国においての日本語教育の位相」というタイトルで韓国においての日本語教育の過去と現在と未来の在り方を皆さんにお話ししたいと思います。

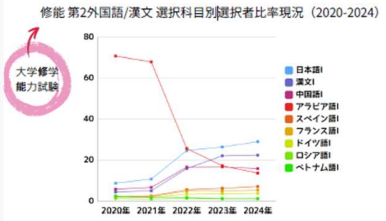
私は 1980 年ソウル生まれ、外国語高校の日本語科を卒業し高麗大学に入学しました。卒業後は教育大学院に入り先生になるための資格証を取りました。2006 年に先生になり、2019 年から博士課程、大学院に入ってテスト問題の開発、というテーマで勉強を続けてきました。今年はお茶の水女子大学国際教育センター研究協力員、また目白大学 韓国語学科 非常勤講師として働いています。2019 年は城南市で日本語教育研究会会長、2022 年は京畿道日本語教育研究会副会長を務めました。

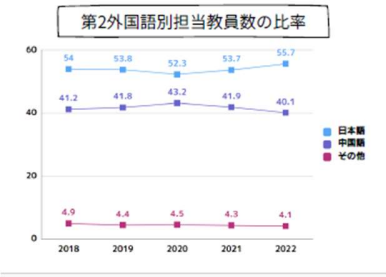
米山奨学生として志願した目標は、1.勉強、研究のための時間確保、2.生き生きとした現場の日本語を伝えられる資料の収集、3.子供たちと一緒に広い世界を経験してみたいという個人的な願いでした。

今までの活動ですが「見学」岡田さんからいいプログラムに誘っていただき友達と一緒に行ってきました。そこでは東京の歴史や地理について勉強をすることができました。「執筆」研究に関連する執筆です。来年と再来年に韓国で出版される予定で、翻訳書、執筆した教科書もいっぱいあり、問題集も 2 冊あります。「教師研修」韓国人の日本語教師のために研修や講義も行いました。「学校訪問」5 月 6 月は日本の小中学校、高校、大学、文科省を訪問しました。東京学芸大学付属大泉小学校を訪問したときは給食もいただきました。白いご飯ではなくパンが出てくるのが不思議でした。すべての授業をオンラインで行っている高等学校でその授業を体験しました。ここで初めて通訳を務めましたけれども、通訳をするには私の実力が足りないことにやっと気づきました。でも先生として、日本の小学校、中学校、また教育関連機関を訪問したのはめずらしくて貴重な経験になりました。7 月 8 月は再来年韓国で使われる日本語の教科書に入る写真や動画を撮影しました。とても暑かったのですが、日本の方誰一人も文句も言わずに協力していただき順調に撮影を終わらせることができました。いい教科書になりそうです。7 月には韓国で教えていた教え子が大学の夏休みになって東京に遊びに来ていました。この 2 人を授業に呼んで、私の学生の 18 人と一緒に韓国と日本の文化についてお互いに話し合いました。すぐ仲良くなって友達になっていました。学生 18 人は来年韓国に交換留学で来ることになっています。ソウルで集合する予定になっていて、もう楽しみです。

米山奨学生としてほぼすべての活動に積極的に参加しました。学友会の総会で初めてイヒョンジンさんに出会いました。イヒョンジンさんと出会えてから私の東京の生活は豊かに幸せになりました。8 月には筑波で開かれた世界大会に行ってきました。恥ずかしいことに、世界大会に行って、ロータリーとは何か、米山とは何か、を少しわかるようになりました。奉仕活動に参加したり先週は能楽にも行ってきました。米山奨学生だったからこその活動だと思います。

韓国の日本語教育ですが、韓国では英語は必修で、日本語、ロシア語、アラビア語。中国語、スペイン語、フランス語、ベトナム語、ドイツ語は選択科目として勉強しています。すべての学校で、すべての科目が開設されているわけではなく、1 つの学校で 2、3 の科目が開設されており生徒たちはその中で 1 つを選んで勉強しています。





韓国には大学修学能力試験(修能)があり、第 2 外国語の試験があります。2020 年、2021 年は第 2 外国語の評価が相対評価だったためアラビア語の選択者が多かったのですが、2022 年度から絶対評価にしたところ、日本語が一位を安定的に占めています。第 2 外国語の担当教員数は、50％以上が日本語で 2 位は中国語です。他の言語は全部合わせても 5％未満で少数にとどまっています。結論的に韓国の外国語教育は、日本語と中国語、大きく 2 つに分けられているといえます。最近の日本語の先生たちは、生徒たちが多く授業数が多すぎて、どうやって運営すればいいのかについて悩んでいます。2022 年は日本語と中国語の先生の比率が一番縮まっている年でした。日本と韓国の関係が私の知っている限り最悪の時で、生徒たちも日本語を勉強しても旅行もいけない、どこにも役に立たない、勉強する動機を失っていました。これが 4 年前～2 年前のことです。今また政権が変わり雰囲気も変わってきました。日本語選択して勉強している韓国人は、日本語が楽しそうだから、身近な国で言語が親密だから、アニメやゲームなどの大衆文化が好きだから日本語を勉強しているそうです。雰囲気が変わるのが速すぎて、喜んでいてもいいのかそれもまた心配です。今こそが、国際関係とか雰囲気に揺れないような言語教育の必然性を確保しなくてはいけない時期とも思います。

皆様は多くの知識や経験をもっていらっしゃると思います。私たち教員は学校という小さな狭い世界しか知りません。アドバイスやアイデアがありましたらぜひひと言お願いしたいと思います。

また私は婉曲な表現や、本音と建前をどう区別すればいいのかまだわかりません。本音と建前を生徒たちに教えるときもどうやって扱えばいいのか、例えば誉め言葉をそのまま受け入れてもいいのか、一度疑って他の意味があるのではないかと考えさせるべきか今でもわかりません。私にはまだ言語文化的ないろいろな課題が残っています。

日本と韓国、韓国と日本の若者たちがお互い個人的な交流を続いていくときこそ両国の明るい未来があると小さな希望を抱いています。それで、そのとき使われる出会いとか、交流に使われる言語や文化について教育に支援していくのが私の仕事だと思います。こういう仕事にもっとがんばっていきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。